

[BOSAI TIDBITS]

BOSAI+ Tidbits



『地震に強い収納のきほん』表紙(帯に著者の松永りえさん)
(画像クリックで拡大表示／以下同様)



『収納のきほん』より「危険な家の5つの特徴」



「奈良市子ども会議」より

●『地震に強い収納のきほん』 扶桑社から新刊(8月6日発売) 熊本地震を経験した防災収納インストラクター・松永りえさんの答え

あなたの家、安全ですか？ 危険な家の5つの特徴とは？ M7.3熊本地震から生まれた「地震に強い収納」のつくり方が、扶桑社から8月6日に発売される。熊本地震を経験した防災収納インストラクター・松永りえさんが、命を守るためにたどり着いた答えが、「地震に強い収納=防災収納」。実体験から生まれた「安全な家」の作り方の紹介だ。

▼あなたの家、安全ですか？ 危険な家の5つの特徴。一つでも当てはまつたら要注意
□なぜか、いつもものを探している。

□「使い勝手がいちばん！」の出しつぱなし収納にしがち

□廊下や玄関は段ボールの仮置き場に

□「巨大台風接近！」と聞くとまずスーパーに走る

□防災用品は1か所にまとめてストック

防災収納によって助かる命がある——防災収納の基本は、「片づけ」「安全対策」「備蓄」の3本柱。この3つがすべてそろって防災収納が機能する、と松永りえさん。初心者でも「防災収納」をすぐに取り入れられるヒントを満載しているのが、『地震に強い収納のきほん』で、ほかにもキッチン、リビング、寝室、玄関＆廊下、洗面所、トイレなど、日常生活で無理なく続けられる「防災収納」を紹介。この一冊で、あなたの家が“地震に強い家”に変わる。

□キッチンでは「つるす収納→しまう収納」に変えるだけで安全に

□観葉植物は、置く場所を工夫するだけで被害が減らせる

□大ピンチ！ トイレに閉じ込められたときの対処法

危険が多いキッチンは「隠す収納」で身を守る、緊急時にすぐに持ち出す「防災リュック」、松永家の防災備蓄アイテム一覧など、安全な家づくりのノウハウが満載だ。

もくじを見るとほかに、がんばらずにできる防災対策「ストックローリング」(水編、食品編、日用品編、衛生品編)、防災ポーチ・防災リュックのつくり方、災害時に本当に役立つ備えておくべきもの、番外編として備えておくと安心「クルマの防災グッズ」まで徹底している。

著者の松永りえさんは、熊本在住で2016年熊本地震で被災したこと、「快適な暮らしは安全の上にこそ成り立つ」と実感。防災を学び、「防災収納」を広めるために、テレビや講演会、執筆など幅広く活動中。

・『地震に強い収納のきほん』：定価1760円(税込)、扶桑社刊、発売日：2025年8月6日
>>[扶桑社：『地震に強い収納のきほん』](#)

●「奈良市子ども会議」 今年度のテーマ「奈良市の防災を考えよう！」 子ども会議から市長への提案報告会も(市の回答もあり)

「奈良市子ども会議」は、子どもにやさしいまちづくりについて、大学生のお兄さんやお姉さんをファシリテーター(進行役)に、子どもたち自身が話し合う場で、2015年度から実施されている。子どもにやさしいまちづくりについて、様々な視点から自由に話し合う。会議参加者は、奈良市内に在住または在学する小学5年生から高校3年生(30名程度を募集)。

今年度のテーマは、「奈良市の防災を考えよう！」で、7月25日から8月8日の間に5回会議を開催、日程終了後、参加者から奈良市長へ意見を提出する報告会を開催する。

初日(7月25日)に参加した子どもは15人で、奈良市危機管理課職員からハザードマップの見方など基礎知識を学び、グループワークでは、サポート役の大学生とともに災害や防災についての意見を書き出し、意見交換を行い、真剣な様子で取り組んだという。

>>[奈良市：奈良市子ども会議について](#)